

編集後記

本号の編集中に東北大震災から満2年が経過した。被災地では慰霊の行事が諸処で執り行われるとともに、次に予想される災害に向けての国家的規模あるいは地域的規模で防災についての取り組みがなされている。他方で、震災にともなって発生した福島第一原子力発電所ではいまもって種々のトラブルに見舞われている。また、日本の近隣では不穏な国際情勢に懸念がもたれている。震災によって犠牲になられた人々を改めて悼むとともに、災害や国際紛争によって人命が失われることがないように願わずにはおられない。

そのような情勢の中で、第114回日本医史学会総会が東京において西巻明彦会長の下で開催される。理事でもあり、また編集委員の労をとられている先生が工夫を凝らして開催される総会からは企画や講演からさまざまなことを学ぶことができる。私たちはこうした歴史への考察をそれとして客観的に精緻になすとともに、それが常に現代あるいは未来の私たちのあり方との応答でもあることを心に期す必要があるであろう。イタリアの歴史学者B. クローチェは、「すべての歴史は現代史である」という象徴的な記述を残している。また、交流分析の提唱者であるE. パーンは「他人と過去は変えられないが、自分と未来は変えられる」というよく知られた名言を残している。変転極まりない昨今だからこそ、彼らの言葉を胸に抱きつつ、第114回総会に臨みたい。

(瀧澤 利行)